

令和6年6月12日

中部圏広域地方計画協議会 幹事会

“世界ものづくり対流拠点-中部-”へ、着実に推進 ～中部圏広域地方計画「令和5年度の取組み」を公表～

中部圏広域地方計画は、暮らしやすさと歴史文化に彩られた“世界ものづくり対流拠点-中部-”を将来像に、5つの方針と10のプロジェクトを位置付けて実効性を高め、着実な推進を図るために、毎年度進捗状況をフォローアップしています。

今般、策定されてから8年目となった本計画について、中部圏広域地方計画協議会の構成機関が実施した「令和5年度の取組み」をとりまとめ、総数1242の取組みについて確認しました。今後も関係機関が協働・連携し、着実な推進ができるようにプロジェクトを進めていきます。

なお、現行計画の取組状況や中部圏広域地方計画有識者会議の議論を踏まえて、新たな中部圏広域地方計画について検討を進めます。

■中部圏広域地方計画の推進について 令和5年度の取組み

アドレス：https://www.cbr.mlit.go.jp/kokudokeisei/kouiki/keikaku_sintyoku_kanri.htm

■概要：別紙のとおり

【配 布 先】：中部地方整備局記者クラブ、東海交通研究会、名古屋港記者クラブ、長野県庁内会見場
岐阜県政記者クラブ、静岡県政記者クラブ、三重県政記者クラブ・三重第二県政記者クラブ、
静岡市政・経済記者会、浜松市政記者クラブ、名古屋市政記者クラブ

【問合せ先】：中部圏広域地方計画協議会 事務局（中部圏広域地方計画推進室）
国土交通省中部地方整備局

企画部 事業調整官 大竹 庸訓（内線 3116）

広域計画課長 高橋 寿（内線 3211）

TEL052-953-8129（企画部広域計画課直通）

■ 中部圏広域地方計画の体系

将来像

暮らしやすさと歴史文化に彩られた
“世界ものづくり対流拠点-中部”

リーディングプロジェクト

(★: 中部・北陸圏広域連携プロジェクト)

基本方針1 世界最強・最先端のものづくりの進化

- 世界を先導、人材力・技術力・集積力、研究力、品質力のさらなる進化。
- 国内外から投資を呼び込む太平洋から日本海に至る広域産業クラスター。
- 中部・北陸圏、産学官民の連携強化。

1.ものづくり中部・世界最強化 プロジェクト

1-1ものづくり中枢圏形成

1-2 環太平洋・環日本海に拓く一大産業拠点形成 ★

基本方針2 スーパー・メガリージョンのセンター、我が国の成長を牽引

- リニア効果を中部・北陸圏の広域に最大化する地域づくり。
- 中部圏の魅力を高め、東京一極集中是正と地方への人口還流、国際大交流時代を先導

2.リニア効果最大化対流促進 プロジェクト

3.新たな観光交流おもてなし プロジェクト

3-1広域観光交流圏の形成

3-2「昇龍道プロジェクト」の推進 ★

基本方針3 地域の個性と対流による地方創生

- コンパクト＋ネットワーク。地域の個性・資源を磨き上げ、重層的対流を促進。
- 地域に活力を生み、就業が安定的に確保され、豊かさを実感できる社会構築。

4.中部圏創生暮らしやすさ実感 プロジェクト

5. 快適・安全安心な生活環境実現 プロジェクト

基本方針4 安全・安心で環境と共生した中部圏形成

- 南海トラフ地震など自然災害に備えた防災・減災対策。
- 環境共生(生物多様性、景観) 国土保全。国土基盤の戦略的メンテナンス、持続可能な中部圏構築。

6.中部・北陸圏強靱化 プロジェクト

6-1 南海トラフ地震など大規模自然災害への備え

6-2 太平洋・日本海2面活用型国土構築 ★

7.環境共生・国土保全 プロジェクト

8.インフラ戦略的維持管理 プロジェクト

基本方針5 人材育成と共助社会の形成

- 次代を担う人材の育成、ゆとりある生活環境を活かし、女性や高齢者をはじめ誰もが参画できる社会。
- 地域に愛着と憧れを持ち助け合う共助社会を実現。

9.すべての人が輝く「ひとづくり」プロジェクト

10.新たな「つながり」社会構築 プロジェクト

中部圏広域地方計画の進捗管理【令和5年度の取り組み】

基本方針1 世界最強・最先端のものづくりの進化

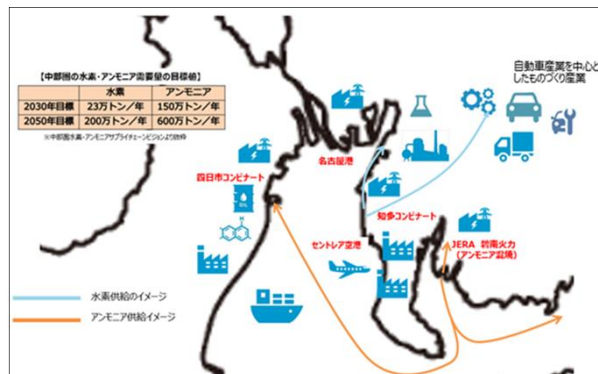
1.ものづくり中部・世界最強化プロジェクト（239件）

取組事例 ■ 中部圏における水素等の大規模サプライチェーン及び拠点形成に向けた取組み【中部経済産業局】（R5新規）

- 脱炭素燃料である水素等はカーボンニュートラル達成に必要な不可欠なエネルギー源であり、エネルギー基本計画においても2030年の電源構成に位置づけられている。
- 政府においても水素等の大規模サプライチェーン構築及び拠点形成に向けた支援が検討されている中で、中部圏においては、水素等の活用に関して発電のみならず、自動車産業を中心とする産業界における早期の活用が期待されているところ。
- 中部圏における、水素等のサプライチェーン構築及び拠点整備に向けて供給候補者及び需要家との調整・企画提案作りのサポートを継続的に実施する。

■ 今後の予定・方向性

- 中部圏において、水素等の新たなサプライチェーン構築および拠点形成にむけ、供給者となりうる事業者と需要家等との調整を継続し、2020年代後半の全国に先駆けた水素・アンモニアの幅広い活用につなげる



中部圏における水素等の新たなサプライチェーン構築及び拠点形成に向けたイメージ

基本方針2 スーパー・メガリージョンのセンター、我が国の成長を牽引

2.リニア効果最大化対流促進プロジェクト（23件）

取組事例 ■ 名古屋駅のスーパーターミナル化【名古屋市】

- リニア駅周辺の面的整備
「リニア駅周辺のまちづくりの方向性（中間とりまとめ）」（H31年）をふまえ、人々が集い、憩い、交流する広場が中心にあるまちの実現に向けて、地元や関係機関等との協議・調整を実施した。
名古屋駅西地区まちづくり推進会議 R5年9月25日開催
- 名古屋駅ターミナル機能の強化
「名古屋駅駅前広場の再整備プラン（中間とりまとめ）」（H31年）をふまえ、関係者との調整や事業の具体化に向けた検討、整備に向けた準備工事を進めている。
西側では、リニア開業時における平面レベルでの整備について、令和4年12月に公表したデザイン計画を基に、詳細設計を行なった。
東側では各施設の設計の具体化の検討を行うとともに、地下部の都市計画を決定し、駅前広場のモニュメント「飛翔」基壇部の解体などの工事を行った。
名古屋駅周辺エリアにおけるトータルデザイン検討会議 R5年10月27日開催



名古屋駅西側駅前広場リニア開業時の姿 整備イメージ図
(R6.2公表「名古屋駅西側駅前広場整備計画」より)

3.新たな観光交流おもてなしプロジェクト（118件）

取組事例 ■ 志摩市における観光と地域が一体となった持続可能な観光地としての価値創出事業【中部運輸局】

- 三重県志摩市において、サステナブルツーリズムに関心のある訪日外国人旅行者及び国内在住旅行者をターゲットに、観光利用と地域資源の保全を両立させ、旅行者の観光行動による恩恵を地域の経済・社会・環境へ還元する高付加価値な体験等のコンテンツを造成し、持続可能性の向上に資する好循環の仕組みづくりを検討・実装する

【外国人アドバイザーによるモニターツアーの様子】



志摩で育まれた「たて藍」で藍染め体験



小堀木工所の組子細工の体験



安楽人形浄瑠璃 特別貸切体験



間崎島探検体験

基本方針3 地域の個性と対流による地方創生

4. 中部圏創生暮らしやすさ実感プロジェクト（211件）

取組事例 ■ フジイチ（富士山一周サイクリングルート）におけるサイクルツーリズムの推進【静岡県】

- これまで富士山一周サイクリングルートでは、ぐるり富士山風景街道の活動が取り組まれてきた。富士山の世界遺産登録や、東京2020オリンピック・パラリンピックの自転車ロードレースの開催など、富士山周辺地域のサイクルツーリズムのニーズが高まる一方で、県境を越えた取組は進んでいなかった。
- そこで、地域資源を活かしたサイクルツーリズムによる地域活性化に向け、山梨県・静岡県の官民連携協議会（ぐるり富士山サイクルツーリズム推進協議会）を令和5年8月に設置し、関係者が一体となった取組を進めている。
- 令和6年2月には、統一的な案内サインや情報発信に活用するロゴマークを決定した。
- 引き続き、富士山の魅力を活かした地域づくりに向け、サイクリングの環境整備を進めていくためのアクションプランを策定していく。



フジイチを周遊するサイクリスト(富士宮市)

5. 快適・安全安心な生活環境実現プロジェクト（56件）

取組事例 ■ 三重県交通安全研修センターにおいて、幼児から高齢者までの幅広い県民を対象とした参加・体験・実践型の交通安全教育の実施【三重県】

- 交通事故から身を守る理論（知識）を実践に結びつける能力（技能）を高めるために幼児から高齢者まですべての年代の県民を対象に、運転者や歩行者向けのシミュレーターを活用した体験、屋外自転車研修コースなど施設の強みを生かしながら、対象者ごとのプログラムを基に、参加・体験・実践型の交通安全教育を実施。
- 交通安全教育を地域等に根付かせていくため、地域や職場で活動する交通安全教育指導者を体系的・継続的に養成。

■今後の予定

- 利用者増加に向け、道路交通法改正などの交通事故情勢を踏まえ、カリキュラムの充実を図る。
- 「三重県交通安全研修センター」ホームページサイト
<http://www.safetyplaza-mie.com/>



歩行環境シミュレーター



屋外自転車研修コース

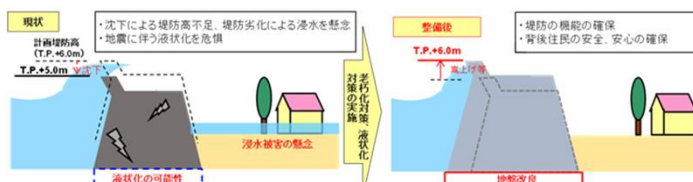
基本方針4 安全・安心で環境と共生した中部圏形成

6. 中部・北陸圏強靱化プロジェクト（140件）

取組事例 ■ 津松阪港海岸の堤防改良【中部地方整備局】

- 津松阪港海岸において、堤防の高上げ、老朽化対策及び液状化対策を実施。
- 栗真町屋工区及び阿漕浦・御殿場工区に加え、平成30年度に追加した栗真工区の堤防改良を実施。
- 令和5年度に事業完了

■津松阪港海岸 堤防改良対象工区



7.環境共生・国土保全プロジェクト（143件）

取組事例 ■ 企業局電力を活用した県庁舎の使用電力100%再生可能エネルギー化の実現【長野県】（R5新規）

- 温室効果ガス排出量の削減とエネルギーの地消地産を実現するため、令和5年7月から、県（企業局）の水力発電所で発電した電力を、「自己託送」により、県庁舎への供給を始めるとともに、「非化石証書」を組み合わせて、県庁舎で使用する電力の100%再生可能エネルギー化を図っている。

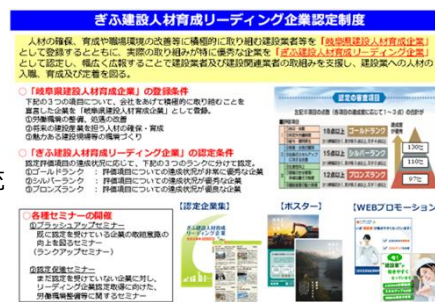


- 今後の予定・方向性
- 県庁舎での率先的な再生可能エネルギー導入の取組も事例に、県内企業や公共施設等での再生可能エネルギーの普及拡大を図るとともに、エネルギーの地消地産を推進する。

8.インフラ戦略的維持管理プロジェクト（76件）

取組事例 ■ 「ぎふ建設人材育成リーディング企業」の認定、WEBプロモーション推進【岐阜県】

- 労働環境の改善、人材の育成等の取組を積極的に実施した県内建設関連企業を11月に「ぎふ建設人材育成リーディング企業」に認定。
- また、認定企業を紹介する認定企業集やポスター及びチラシを作成し、県内高校やハローワーク等へ配布。
- 認定企業を対象とした取組をブラッシュアップさせるセミナーや、未認定企業を対象とした認定を促進するセミナーを、10月、11月に実施。」
- 担い手確保や業界全体のイメージアップのため、認定制度や認定企業を認知してもらう必要があることから、10月に専用WEBサイトのコンテンツや機能を拡充してリニューアルをし、特に学生や求職者に対してInstagramや意見交換会で周知。
- 今後の予定・方向性
- 建設関連業のイメージアップを図る必要があるため、「ぎふ建設人材育成リーディング企業」の認定及びPR事業を継続する。



基本方針5 人材育成と共助社会の形成

9.すべての人が輝く「ひとづくり」プロジェクト（128件）

取組事例 ■ 愛知県「休み方改革」プロジェクト【愛知県】（R5新規）

- 「休み方改革」（休暇取得のあり方の見直し）を通じたワーク・ライフ・バランスの充実と生産性向上による日本経済の活性化を目指し、2023年度から以下の取組を実施。
- ①あいち県民の日（11/27）・あいちウィークを契機とした「休み方改革」の推進
- ②休暇を取得しやすい職場環境づくり
- ③家族と子どもが一緒に過ごせる仕組みづくり
- ④平日や閑散期への観光需要のシフト
- ⑤地域が一体となった「休み方改革」の推進

- 今後の予定・方向性
- 5つの取組を継続しつつ、国民運動として展開していけるよう全国知事会「休み方改革プロジェクトチーム」においても活動していく。



10.新たな「つながり」社会構築プロジェクト（108件）

取組事例 ■ オンライン診療によるへき地医療確保事業【岐阜県】（R5新規）

- 医療資源が少ないへき地等における診療機会の充実化や医師の負担軽減を図るため、へき地医療拠点病院等からへき地診療所等に対するオンライン診療を実施し、地域における医療確保を実現する。

- 今後の予定・方向性
- 事業の有効性、課題等を検証のうえ、他地域へ取組みを拡大していく。



へき地診療所にて医師からオンライン診療を受ける患者